

## 駅前広場の待合所を利用した産直所を設置せよ

### 町長…販売者の組織化に向け多方面から検討する



青木 久子 議員



待合所を産直所などに有効利用すべき

再質問 「めでためた」花のやまがた観光圏整備実施計画」への取り組みは、商工会・JA・振興公社と連携したプロジェクトチームを立ちあげべきでは。

町長 観光物産協会も立ちあがってほしいし、観光客の方にも喜んでいただける方策と一緒に考えていく。

### 観光問題と駅前整備の再点検は

駅は、町の将来の扉を開くといっても過言ではない。再来型観光をめざし、バス待合所を利用した期間限定の産直販売やわが町なりの観光ルートの開発、観光物産協会などの設置に積極的に取り組む考えはないか。

町長 広場の待合所を利用して当町の産品を販売できないか、販売する方々の組織化など多方面から検討していく。



利用価値のない駅中央の池

整備前より利用しやすい駐車場となったのか。通学時の送迎は混乱している。中央の池の部分を利用してちよつと停車する場の確保をしようか。再検証の必要があるのでは。

町長 駐車場は、南側と北側に配置し、駐車台数を十分に確保している。通学や通勤する方の送迎時の乗降がスムーズなロータリー方式とした。駐車場として、数十秒で駅舎までいけるので利便性があり、問題はないと認識している。

ロータリー中央部の池の部分は、融雪を考慮した形態としていたが、実態は困難な状況にある。夏期間の景観も考慮して現在と異なる形態を検討する。

ウッドデッキは、利用者の憩いの場として国の補助事業で整備した施設。しばらくは、撤去できない状況にある。

施設の整備を終えたら、利用状況を点検し、利用しやすい形態に変えていくことは当然なこと。また、利用する形を工夫していく必要もある。



原因は？ 発芽不良苗

### 農業問題は

水稲の発芽不良苗の状況と原因は。

町長 当町管内の「はえぬき」の苗に発芽不良苗が発生した。村山地区でも発芽不良苗が西村山地区・東根市の一部で発生している。当町における発芽不良苗数は、約1万4千箱であり、約56%分となり、作付面積の約6%の面積にあたる。原因は現在全農、山形県が調査中であり、原因究明は今後の育苗管理に影響してくるので調査状況を注意深く見守っていく。

再質問 種子消毒の工コホーブは使用条件をはじ



村岡 藤弥 議員

## 戸別所得補償の影響は 町長：農家経済には大きくプラスに働く

### 畜産問題は

め評判は良いとはいえない。エコファーマーの定義にもあるが国、県と情報交換し変更を含め何らかの手を打つべきではないか。

産業振興課長 エコホープから化学薬品に変えた場合、その後の薬品を減らすなどの形態になる。農業の使用基準の再検討もなければならぬ。JA、普及所と検討していく。

※米戸別所得補償モデル対策に期待はあるが不安もある。制度による影響は。

町長 昨年度の転作実績に最大限の交付金の額を見ますと約2億円で、平年ベースで7千万円程度でしたので約1億3千万円

※エコファーマーとは、持続性の高い農業生産方式の導入に関する法律に基づき、都道府県知事が認定した農業者(認定農業者)の愛称。

※米戸別所得補償モデル事業とは、需給調整に参加している米の農家に対して主食用米の作付面積10a当たり1万5千円を直接支払により交付して、水田農業を担う農家の経営安定をはかる事業。

※口蹄疫(こうていいえき)とは、家畜の伝染病のひとつで、偶蹄目(牛、豚など蹄が2つに割れている動物)の動物が口蹄疫ウイルスで感染する感染症。日本では家畜伝染病予防法において法定伝染病に指定されている。

※口蹄疫への対策は。

町長 水際での予防措置用として町内14戸の畜産農家に対し、畜舎出入り口の消毒用石灰を配布した。